



◆ポピー祭り

第2章

坂戸市の将来像



1. 坂戸市の将来像とまちづくりの目標

坂戸市総合振興計画の考え方を基に、20年後の坂戸市の将来像とまちづくりの目標を設定しています。

(1) 坂戸市の将来像

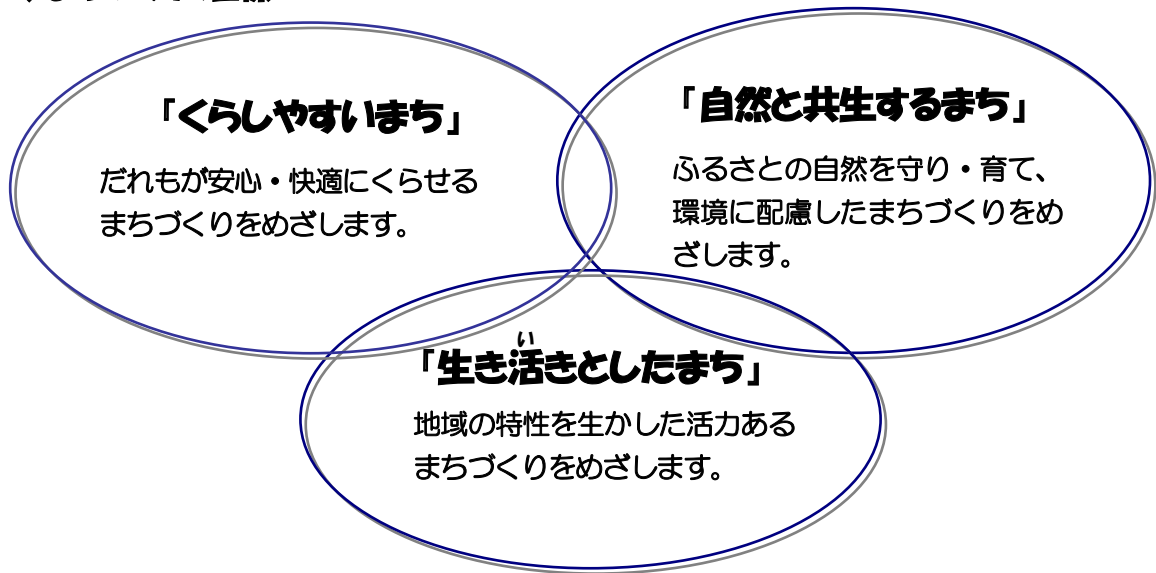
将来像

夢を育む ホッとするまち 坂戸

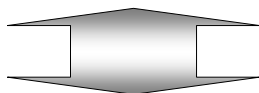
【将来像の考え方】

坂戸市の将来像は、「だれもが安心・快適なくらしやすいまち」、「ふるさとの自然を守り・育てる自然と共生するまち」、「地域の特性を生かした活力ある、生き生きとしたまち」を目標に、次世代が希望のもてる、夢を一步一步育み、市に住む人・訪れる人、だれもがホッとするまちづくりの実現をめざし進めていきます。

◆まちづくりの目標



◆実現に向けて



坂戸市のまちづくりは、市民を主体に、企業・大学・行政等の協働により進めていきます。

(2) まちづくりの目標

「くらしやすいまち」

～だれもが安心・快適にくらせるまちづくりをめざします。

くらしやすいまちとするためには、身近な生活環境の充実を図ることが重要であり、今後も生活重視の視点から、生活道路や下水道、公園などの生活基盤施設の整備・充実を図ります。

公共施設や道路、橋りょう、上下水道などの社会資本については、長期的視点からコストと優先順位を明確にした維持管理・修繕、更新、再編及び新規整備計画の策定・実施を推進します。

また、少子・高齢社会への対応、防災・防犯に配慮したまちづくり、良好な街並みの形成、交通基盤の整備や交通安全性の確保など、ユニバーサルデザインの考え方も取り入れ、だれもが安心して快適にくらせるよう生活に密着したまちづくりをめざします。

「自然と共生するまち」

～ふるさとの自然を守り・育て、環境に配慮したまちづくりをめざします。

市には、城山の森林や、高麗川・越辺川をはじめとする水辺など豊かな自然があり、多様な生物の貴重な生息の場となっています。

また、市街地には屋敷林、社寺境内林などの緑が多く点在するとともに、集落地周辺には水田を中心とした田園風景が広がり、緑豊かな郷土の景観を形成しています。

豊かな水と緑の環境は、うるおいや安らぎのある都市生活に欠かすことのできない重要な機能を有しており、ふるさとの自然や景観を守り・育てるとともに、環境に配慮したまちづくりをめざします。

「生き活きたまち」

～地域の特性を生かした活力あるまちづくりをめざします。

市では、これまで人口増加に対応するため、都市基盤や住宅開発を中心とした整備を進めてきましたが、今後は特色のある成熟した都市への転換が求められています。

また、圏央道の整備により、産業・文化・レクリエーションなど多方面で、広域的な交流機会が広がり、沿線地域の活性化が期待されています。

今後とも安定し持続的に発展していくため、都市基盤の整備を図るとともに、中心市街地をはじめ地域の特性を生かした農業・商業・工業の活性化、地域の連携強化などを図り、活力あるまちづくりをめざします。

2. 将来都市構造

(1) 本市の都市構造の変遷と特徴

① 市街地の変遷

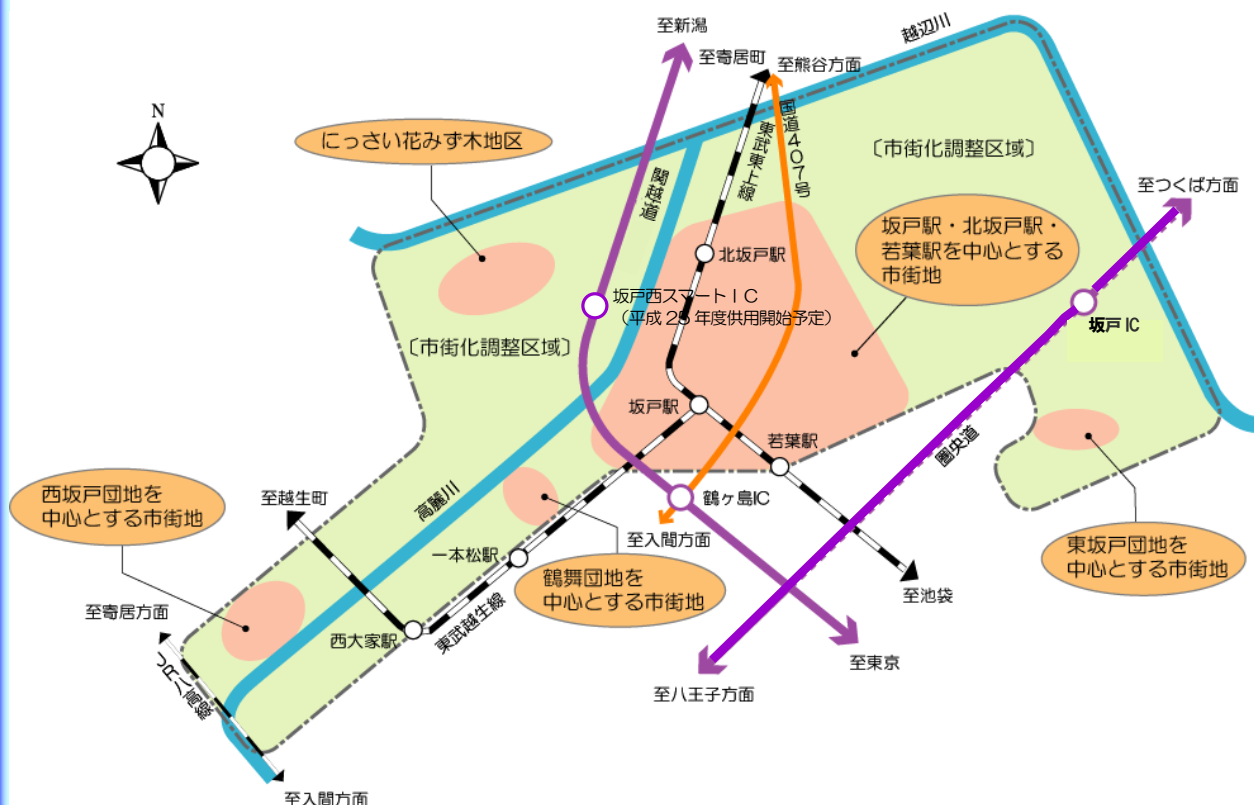
本市の市街地は、東武東上線の各駅を中心に発展し、昭和40年代半ばから公団や民間による大規模宅地開発が進み、人口が急増するとともに市街地が拡大してきました。

② 都市構造の特徴

現在の都市構造は、高麗川、越辺川などの河川、坂戸駅などを中心とした既成市街地、郊外に形成された大規模住宅団地、市街地を囲む農地・集落地などで構成されています。

道路は関越道、国道407号が縦断しており、今後、圏央道の整備により広域交通の結節地域としての役割がますます高まっていくことが期待されています。また、鉄道は東武東上線が都心や寄居町方面を連絡し、東武越生線が坂戸駅から越生町方面を連絡しています。

■都市構造の特徴



(2) 将来都市構造の考え方

将来都市構造については、河川などの自然の骨格や現在の都市構造を土台に、次のような考え方にもとづいて形成していきます。

■将来都市構造の考え方

① 豊かな自然環境との共生・調和を図り、計画的で秩序ある土地利用を進めます。

本市の土地利用は、大きく市街地ゾーンと農業集落地ゾーン、農用地ゾーンなどに分けられます。

市街地ゾーンについては、住宅地、商業地、工業地など地域の特性に応じた計画的な土地利用を進めます。また、農業集落地ゾーンや農用地ゾーンについては、良好な環境や郷土景観を損なわないよう、自然や農地の保全、集落環境の維持・向上など、地域の特性に応じた秩序ある土地利用を促進します。

② 中心市街地にふさわしい都市機能の強化を図ります。

大型店舗の郊外への出店などにより中心市街地の停滞、空洞化が進んでおり、中心市街地の活性化を図ることは、市の重要な課題の一つになっています。

このため、坂戸駅周辺は中心商業拠点として駅周辺整備を推進するとともに、商業・業務機能の集積を図り、活力ある商業・業務地の形成を促進します。

また、若葉駅、北坂戸駅周辺は準中心商業拠点として、地域の特色を生かした商業・業務機能の充実を促進します。

③ 多様で魅力ある都市の拠点を強化・育成し、都市機能の充実を図ります。

行政文化施設が集積する市役所周辺や市民健康センター周辺、住宅地と商業・産業施設が複合するにっさい花みず木地区、工業施設が集積する富士見工業団地、スポーツ・レクリエーション施設が集積する総合運動公園、貴重な自然が残る城山周辺、大学が立地するけやき台周辺と若葉駅東口周辺を、様々な都市活動を担う「都市の拠点」として強化・育成し、都市機能の充実を図ります。

また、関越道坂戸西スマートIC周辺地域及び圏央道坂戸IC周辺地域は工業・流通系、国道407号西側の片柳地区は商業・流通系の土地利用を推進するほか、四日市場・多和目地区、森戸地区においては、自然環境を生かし調和のとれた土地利用を検討します。

④ 中心市街地と各地区間、都市の拠点を連絡する骨格軸や交通網の強化を図ります。

道路は都市構造を形づくる重要な骨格であり、今後とも、関係機関、隣接市町と連携しながら、中心市街地と三芳野、勝呂、入西、大家の各地区間、近隣市町及び各都市拠点を結び、都市の骨格的な軸となる幹線道路の整備・改善など交通網の強化を図ります。

また、市を縦断する高麗川は、水と緑の骨格軸として位置づけ、シンボル空間の魅力を高めるとともに、越辺川の河川周辺と併せ、水と緑のネットワークの形成を図ります。

(3) 将来都市構造の体系

次のような都市の拠点や都市の軸を中心に、将来の都市の骨組みづくりをめざします。

【都市の拠点】

都市活動の中心として、多様かつ特色ある拠点づくりを図ります。

- ① 中心商業拠点（坂戸駅周辺）
- ② 準中心商業拠点（若葉駅周辺、北坂戸駅周辺）
- ③ 行政文化拠点（坂戸市役所周辺、市民健康センター周辺）
- ④ 生活・産業複合拠点（にっさい花みず木地区）
- ⑤ 工業拠点（富士見工業団地周辺）
- ⑥ スポーツ・レクリエーション拠点（総合運動公園）
- ⑦ 緑の拠点（城山周辺）
- ⑧ 文教拠点（けやき台地区、若葉駅東口地区）
- ⑨ 開発推進地区（新たな土地利用を推進する地区）
（関越道坂戸西スマートIC周辺地域、圏央道坂戸IC周辺地域、国道407号西側の片柳地区）
- ⑩ 開発検討地区（自然と調和した土地利用を検討する地区）
（四日市場・多和目地区、森戸地区）

【都市の骨格的な軸】

水と緑の骨格や中心市街地と各地区間、近隣市町及び各拠点を連携する都市軸の強化・育成を図ります。

- ① 中心部にぎわい軸（県道坂戸停車場線、駅東通線、駅南通線）
- ② 国道407号沿道軸
- ③ 三芳野・坂戸IC連携軸（坂戸東川越線、上伊草坂戸線等）
- ④ 勝呂連携軸（坂戸東川越線、日高川島線、片柳石井線等）
- ⑤ 入西連携軸（川越坂戸毛呂山線、新川越坂戸毛呂山線等）
- ⑥ 大家連携軸（(仮)新川越越生線、日高川島線等）
- ⑦ 高麗川・水と緑の骨格軸

【主要な土地利用ゾーン】

自然と共生し、地域特性に応じた計画的な土地利用を図ります。

- ① 市街地ゾーン
- ② 農業集落地ゾーン
- ③ 農用地ゾーン
- ④ 公園・緑地ゾーン

将来都市構造図

